

2017年に誕生した話題のスポット

● 2017年に誕生した東京の新スポット

今年もあと10日あまりとなりました。思い返してみれば、「マロニエゲート銀座 2&3」(3月)、「GINZA SIX」(4月)、「渋谷キャスト」(4月)、「トリエ京王調布」(9月)、「上野フロンティアタワー」(11月)など、この1年で東京にはさまざまなスポットが誕生しました。今回は、〈変わるTOKYO地図〉の一環として、2017年に誕生した話題のスポットについて振り返ります。

● 五輪も視野に発展を続ける都内屈指の繁華街

1984年に誕生し、OLのファッションの聖地とも言われたプラタナ銀座は3月15日、隣接する「マロニエゲート」と一体化した商業施設「マロニエゲート銀座 2&3」として生まれ変わりました。ターゲットを20~40歳代の働く女性と子育て中の母親に設定し、ファッション、コスメ、雑貨、食と様々なジャンルを揃え、年齢もライフスタイルも異なる幅広い女性に向けた“銀座おしゃれナビGATE”を目指しています。

同じく銀座で4月20日、エリア最大級の241ブランドが集まる複合商業施設として誕生したのが「GINZA SIX」です。ブランドショップの他、ライフスタイル雑貨や漆器、着物といった銀座らしい店舗が揃い、開業初日の来館者数は約9万人に達しました。また、屋上庭園や、文化・交流施設「観世能楽堂」も設けられ、トレンドと伝統が融合する場所として注目を集めています。

また、ブランドショップや老舗が並ぶ並木通り沿いには「東京銀座朝日ビルディング」が10月19日に竣工。11月から来年1月にかけてホテルやショップが順次、開業する予定です。中でも日本初上陸となるブランドホテル「ハイアット セントリック 銀座 東京」が話題となっています。銀座では、この他にも2020年の東京オリンピック・パラリンピックなどを見据え、ホテルの進出が相次いでいます。

● 未体験の新劇場や地域の魅力が光る施設も続々

豊洲では、3月30日に新劇場「IHI ステージ アラウンド 東京」が開業。舞台と大型スクリーンが客席を360度囲み、客席全体が舞台の進行に合わせて回転する未体験のスタイルに、1万円を超えるチケットも即完売が続いているようです。

渋谷では、4月28日(しぶやの日)に、駅周辺の建物で渋谷と周辺の街をつなぐ「渋谷キャスト」がオープンしました。同施設は、東京都都市整備局による「都市再生ステップアップ・プロジェクト(渋谷地区)」の第1弾事業であり、地下2階・地上16階建ての建物にファッションやグルメなどの店舗の他、フリーランスや企業人のクリエーターが集まるシェアオフィス、賃貸住宅も設置。「クリエーターが住み、働き、発信する機能を有した複合施設」を目指しています。

高尾山で知られる高尾には、416戸の大規模マンションの一角に八王子エリア最大級となるショッピングセンター「イーアス高尾」が6月22日にオープン。ファミリーやアクティブなシニア世代をターゲットに、暮らし全般にわたる多彩なジャンルの店舗や、動物カフェ、登山専門用品店など、高尾らしさが魅力の施設です。

また、9月29日、京王電鉄京王線「調布」駅には大型商業施設「トリエ京王調布」が開業。「調布らしいちょっとステキな生活」をコンセプトにしたA、B、Cの3館で構成され、C館には“映画のまち”調布の市民待望のシネマコンプレックス「シアタス調布」が併設されました。

11月4日、上野御徒町の松坂屋上野南館跡地には「上野フロンティアタワー」がオープンし、商業施設と映画館、オフィスなどが入る複合商業施設が中央通りの新しい顔として加わりました。地下1階の「上野案内所」は観光案内だけでなく、パンダグッズや老舗の名品など上野らしい商品も扱い、エリアの魅力発信拠点となっています。

東京今昔物語482

サイパンから帰った除夜の鐘

文京区小石川の源覚寺は、鎌倉時代に彫られた木造の閻魔王坐像、別称「こんにやくえんま」で知られる浄土宗の寺院。仏像とこんにやくの話も気になりますが、今回は同寺院で除夜の鐘として活躍する「汎太平洋の鐘」の話題。元禄3(1690)年に設置されたこの鐘は、昭和12(1937)年に当



時日本領だったサイパンの南洋寺に搬出され、現地で時を告げる鐘として使われました。第二次世界大戦中、鐘も行方不明になっていましたが、1965年に米・テキサス州で発見。時を経て1974年、ようやく源覚寺に返還され、今では毎年、大晦日に地域の人々に除夜の鐘の音を届けています。